特集 木と共にある暮らし

卒業生のご家族に聞いてみました。

家へ持ち帰った机と椅子は、今も大事に使われているかな？

「次男が勉強机に使っています。」

長男（現在 大学生）の机

「お兄ちゃんの思い出がいっぱい詰まった机と椅子は、家族みんなにとって特別なもの。ずっと、子どもが学校で使っていたものを見てみたいなあって思っていました。持ち帰ったおさがりを次男が使うことにも大賛成。彼が使わないなら、お祖母ちゃんがミシンの台に使いたいといって狙っていたほどです（笑）。今、次男は小学5年生なので、学校でも木の机を使っていますから、それをもらってくる時、お祖母ちゃんに使わせてあげたいです。」

子どもたちに贈られる机と椅子は、細部にまで細かな配慮がされています。高さを調節することもできるので、いつまでも使い続けられることでしょう。

「家族で愛用しています。」

長女（現在 高校生）の机

机の表面には、コンパスでつついた跡もあり、学校での生活の歴史が刻まれていました。

「今日は玄関に置いて花を飾っていますが、普段は2階の寝室に置いて、テーブルとして使用しています。とてもしっかりした造りなので、長く使っていけそうです。椅子も踏み台として活用しています。

下の子が今、小学6年生です。この後、中学校で3年間使って、卒業する時に机と椅子を持ち帰ります。今度は車庫に置いて作業机に使おうかなって思っています。」

時が経つにつれ、木の色や手触りが変化してきたといいます。これからも、木は味わいを増していくことでしょう。

『木の香るまちづくり推進事業』って何だろう？

高知県では、県民の皆さんが木の良さを体感することにより、木や森への興味を抱き、木を使うことが間伐などの促進につながることへの理解と関心を深めてもらうため、森林環境税を財源とした支援をしています。その一つに『木の香るまちづくり推進事業』があります。主に、県産材を活用した公共的施設等の整備、県産木製品の導入、乳幼児に木製玩具等を配布する木育に対して支援しています。

木の香るまちづくり推進事業 検索

『木の香るまちづくり推進事業を活用した木材利用の取組』

小学校の机と椅子

市町村が乳幼児に配布する玩具

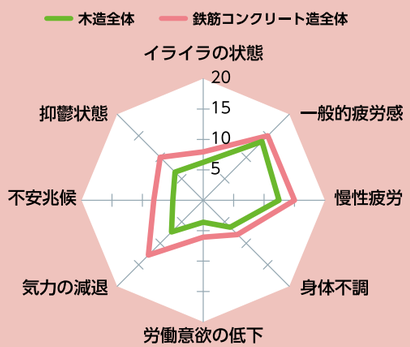
公共的施設の共有空間

観光地の案内看板

木材利用によるメリット

心地よい香り、やさしい色合い、あたたかい手触りなど、木の良さを人は経験的に知っています。でも、なぜ?と聞かれると答えに困ります。実は今、木材利用が人間に与える影響について、測ることによって科学的な根拠を明らかにしようという研究が進んでいます。

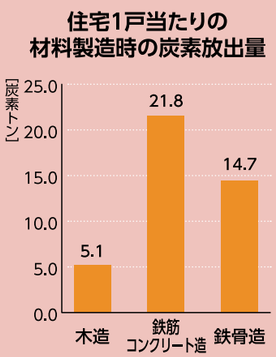
木材の室内環境が人の心理・生理に与える影響



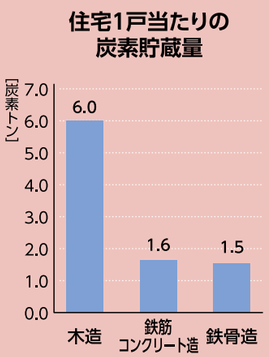
鉄筋コンクリートよりも
イライラや不安などがおさえられています!

資料：財団法人日本木材総合情報センター
「木造校舎が生徒の健康面に与える影響-木材利用マニュアル」

木材利用による環境的なメリット



鉄やコンクリートに比べて
CO_2を出しません!



木材の中にCO_2を
固定するので環境にいい!

出典：平成28年版「森林・林業白書」
資料：岡崎泰男、大熊幹章（1998）木材工業、VOL53-No.4:161-163